



五輪と万博

教育研修部 松尾 邦彦
KUNIHICO MATSUO

1964年10月6日、東京五輪の聖火リレーを沿道から目にしていた小学生は、6年後の1970年7月18日12時50分東京発こだま141号に乗っていた。

なぜか名古屋で二階建ての近鉄特急に乗り換えて鶴橋へ、国鉄環状線で梅田、大阪市営地下鉄御堂筋線、北大阪急行電鉄を乗り継いで千里中央駅に19時32分に着いた。

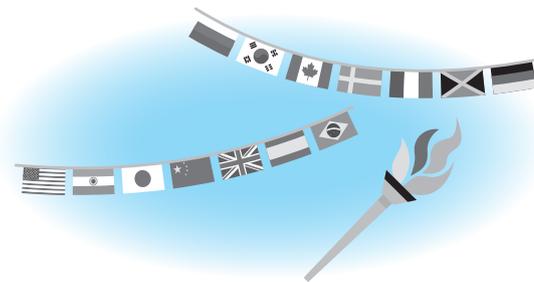
片手に『青年夜間割引入場券300円』と書かれた紙片を持ち、万国博覧会場に。

友人と中学をサボって来たというのに、長蛇の米・ソのパビリオンには見向きもせず、三日間もキラキラと目を輝かせてアフリカやアジアの国々の小さなパビリオンを巡っていた。

60年代から70年代、日本が、世界が、どんどん変わっていく時代の五輪と万博を体感した。今また、東京で五輪が、大阪で万博がそれぞれ開催される。

この時代の五輪と万博を、あれから半世紀オジサンになった僕はギラギラ目を輝かせて体感できるだろうか。ちょっと好奇心がそそられている。

僕が大阪に向かった日、東京の杉並では日本初の光化学スモッグ公害が発生していた。



編集後記

JWセンターは平成30年11月30日に設立30周年を迎えました。これもひとえに、行政・関係団体及び排出事業者や処理業者の皆様のご協力のもと心より厚く御礼申し上げます。引き続きご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

今号では冒頭に設立30周年企画を組ませていただきました。センターの歴史を読者の皆様にもご覧いただければ幸いです。

また、特集企画として、産業廃棄物行政指導を担っている自治体の方にお集まりいただき、「電子マニフェストの明日を語る」の座談会を開催いたしました。行政の電子マニフェストに関する取組

み、意見等をご覧いただける内容となっております。

「行政のうごき」では、金沢市より廃棄物行政の取組みをご紹介いただきました。「産廃クローズアップ」では埼玉県環境整備センター及び彩の国資源循環工場の施設（JWセンター職員施設見学先4社）を紹介いたします。

今号も、ご多忙の中、記事をお寄せいただいた執筆者の皆様、取材や編集にご協力いただいた皆様、本誌を読んでくださった読者の皆様に心から感謝申し上げます。

(菅野)

■本誌に関する連絡先:総務広報室(e-mail:jigyoo@jwnet.or.jp)

〈アンケートへのご協力のお願い〉

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ(以下のURL)に掲載しています。本誌に関するご意見。ご要望を是非、お聞かせください。

URL <http://www.jwnet.or.jp/publish/kikansi/index.html>

JWセンター情報(季刊)VOL.18 NO.4 発行日:2019年1月15日発行 発行人:関 荘一郎

発行所:公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒102-0084 東京都千代田区二番町3番地 麹町スクエア7階

TEL:03-5275-7111 FAX:03-5275-7112 <http://www.jwnet.or.jp/>

デザイン・印刷:株式会社文洋社